

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成30年3月16日
調査研究事項	委託研究 【東大阪市立長栄中学校】 外国籍の者に関する事。 【東大阪市立布施中学校】 委託研究 》 入学希望既卒者に関する事 外国籍の者に関する事
調査研究のねらい	【東大阪市立長栄中学校】 本学級に在籍する生徒は、年齢層もさることながら、国籍が多様（8カ国）であることが大きな特徴である。それに加え、日本に戦前から在住する高齢の日本人生徒や在日外国人生徒もいるものの、本校に限らず夜間学級は、渡日からの年数が新しい「新渡日」と言われる生徒数が急激に増加しているのが現状である。特に、本校には、ベトナム人、中国人の新渡日生徒が多く、言葉が通じにくい中で日々先生方の努力によりコミュニケーションが保たれている。 外国人生徒は、在籍年数の違いや渡日の経緯によって、生徒の日本語能力に大きな差がある。そのため、生徒に対しての学習指導には様々な困難があり、生徒個々の状況に応じた、きめ細かな指導が課題である。職員は教材作成に関して、互いに協力しながら（校内や近隣の夜間中学校間でも）調査研究を日々重ねている。 また、本校は地域に開かれた学校というスタンスを有しており、地域住民を対象とする「オープンスクール」や「夜間中学校祭り」などもこれまで通り、継続実施する。その中で、生徒が自己実現できる喜びや充実感を味わい、自らの誇りを持てる生徒に成長させたいと考えている。そして、「生きた」日本語の表現力を身につけ、日々の生活の中で活用できるようにすることを研究の狙いとする。 【東大阪市立布施中学校】 現在多様な年齢層・国籍の生徒が夜間学級で学習しており、戦争・差別によって学力を奪われた方々、中国残留孤児の方々、結婚・仕事により渡日された方の家族など、社会生活を幸せに送

	<p>ることのできる学力を得るための夜間学級である。そのため、単に日本語を教えることだけでなく、個々の生徒に即した、社会生活に必要な学力をつけるための、調査研究が必要である。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>【東大阪市立長栄中学校】</p> <p>本校では毎月、職員会議と各教科部会、校内研修、および、同じ市内にある布施中学校夜間学級との合同研修を位置付け、夜間学級における学習指導や生徒に対する配慮事項についての検討や研修に努めている。また、研修のみならず、本校独自の行事や布施中学校との合同行事等の日程の調整、内容の検討も行っている。</p> <p>本校が最も重きを置いている学習は文字の読み書きを通して自らを表現することである。外国人のように日本語が初歩的な生徒については、ひらがなやカタカナの学習から始めることになるが、学習内容の定着を図るために、繰り返し反復学習を重ねるとともに、視聴覚教材やICT機器の活用することで、その効果を高める工夫もしてきた。さらに、生徒個々に適した教材や指導法についても、同じ大阪府の夜間学級や他府県の夜間学級の教材などを参考に研修を重ねた。新渡日と呼ばれる外国人生徒が大半を占めるが、日本在住の長い高齢生徒（日本人、在日韓国朝鮮人、中国人生徒）や、既卒学び直しの生徒については、学齢期に学校に行けなかった経験や思い、戦前・戦後の混乱や被差別体験をひもとき、自らの言葉で文章化し、発表することに重点を置いてきている。例えば、本校昼の中学校や校区小学校、さらに校区にとどまらず、多くの小、中学校と交流会を実施し、あるいは、地域住民の文化祭や催しへの美術作品、書写作品等の出展も多く行っている。それは夜間学級の生徒の、自らの思いを表現する場としての活動成果の発表という目的と同時に、夜間学級での教育活動の発信という大切な役割を担っていると自覚している。そうした交流会や地域活動に参加することで、差別や戦争に反対し、様々な国どうしが仲良く、平和で安らかな世の中・時代が実現することを望む夜間学級生徒の思いが、現代の若い児童、生徒たちや地域住民に感動や共感を与えていると自負している。また上にも書いたように、近年多い新渡日の外国人生徒との交流において、真の国際理解教育とも言える、身近な出会いにもつながっている。</p> <p>毎年、年度末にはその集大成として、それまでに学んだ日本語力で自らの思いや体験を綴るための作文指導を重視し、文集「おとなの中学生」としてまとめている。今年で31号を積み重ねる</p>

こととなった。

この取り組みは、生徒個々の学習意欲の継続とその効果を判断するものであり、さらに文集を市内各学校に配布することで、教職員、児童、生徒に読んでいただき、夜間中学生の思いを伝え、夜間学級の存在意義を啓発するものにとらえている。また、文集に書かれた内容の中には、戦争を体験した者でしか語りえない貴重な体験もあり、「生き証人」として、今の児童、生徒たちに「平和の尊さ」や「学ぶことの意味や大切さ」を学習することができる資料ともなるものとする。

【東大阪市立布施中学校】

調査研究の実施内容

【 4月】年間研修計画の検討と策定

【 5月】生徒の実態把握と情報交換

新年度一ヶ月を経て、生徒の実態を把握した上で、
学習指導計画、研修計画の再検討と確認。

校内研究授業（表現についてA Bクラス）

新渡日のクラス

【 6月】校内研究授業（生活について全クラス）

【 7月】夏の公開授業週間

教材交流と検討・研究（4月～7月分）
（表現についてC Dクラス）

【 8月】日本語指導をすすめるにあたって、生徒理解を深めるための 合同夏季一日研修

【 9月】校内研究授業（歴史について）

【11月】校内研究授業（現代社会について）

民族と文化について（美術作品制作）

【12月】教材交流と検討・研究（9月～12月分）

文集作成作業開始

【 1月】冬の公開授業週間

【 2月】教材交流と検討・研究（1月～3月分）

【 3月】年間の反省と総括。

文集完成・配付、次年度の教材として活用。

1 校内の定例の研修 = 「教材交換とクラス情報交換」

「教科研究」、月2回「校内研修」

2 長栄中学校夜間学級との合同研修及び合同教科研 = 毎月

1 回。

調査研究の成果と課題

<成果>

- ・教材研究を積み重ね、夜間中学生の実態に合う授業内容を創り上げることができた。
- ・教材の蓄積、データ化を進めることができた。
- ・外国人生徒にとって、日本の社会や生活を学ぶ授業を進めることができた。
- ・既卒者のこれまでの背景を一定クラスや全校生徒の中で共有化することができた。そのことから、当該生徒も意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・抽出授業などを工夫して、既卒生徒の学力向上を図れた。

<課題>

- ・研修で研究・検討したりしているが、教科研究・教材研究が多岐にわたり、一つひとつの内容を深めていくための工夫が個々の教員にゆだねられてしまいがちであった。
- ・日本語を十分に理解できない生徒にとっては、内容の学習以前に日本語の学習に傾いてしまうことも多い。
- ・中国語のできる教員も配置されているが、生徒の第一言語に精通する教員配置の必要性がある。